



映画「教育と愛国」上映会10/14(月・休)ラポールひらかた

## 学校、教育の困難の背景を当事者の証言で 教育内容、教科書の採択に特定団体と政治の圧力

10月14日(月・休)にラポールひらかたの大会議室で、映画「教育と愛国」が上映されます。この映画は、MBS 記者として、教育と政治の関係を追及してきた齊加尚代さんが監督。

かつて、平和憲法や日本の戦争責任を真っ向から否定し、平和や人権より国家中心の歴史観を広める育鵬社や自由社の歴史教科書、公民教科書が現場の声を無視して、採択される自治体が急増した時期があります。

その時期に、教科書採択、教育内容を巡り、政治家が特定団体と結びついて、学校や教育委員会、メディアも標的にして、「攻撃的」な「圧力」をかけ続けて、介入してきた実態を、当事者の証言を引き出しながら取材したことをもとに作成した映画が「教育と愛国」です。



### 多くの先生たちにぜひ見てもらいたい映画

学校で困難な中、私生活、健康と命を犠牲にしながら必死で支えている先生たち。今我々が負わされている教育課題、教育内容がいったい誰によって左右されているのか、自分たちが直面する困難に目を開かせてくれる映画です。ぜひ多くの先生たちに見に来てほしい映画です。

映画チケットは 1300 円ですが、事前販売のチケットは 1000 円です。メールなどでお知らせいただければ、お渡しできます。当日受付でも、学校名やお名前知らせていただければ、組合担当者がお渡しできます。

## 齊加尚代さん講演会 11/30(土)13:40 旧メセナひらかた

11月30日(土)には、映画「教育と愛国」の監督の齊加尚代さんが枚方に来て、講演を予定しています。

かつて学校への支配を強めようと、君が代起立斉唱条例を制定して、学校現場に「命令」で起立のみならず斉唱も求めたため、子どもたちへの「口元チェック」を支持する校長も現れるなど現場に混乱をもたらしました。その問題をインタビューで橋下元知事に突っ込んだ質問をした齊加さんに 30 分近く恫喝と暴言(自らの法令誤認をもとに)を浴びせながら、核心の質問をスルーしてたことは有名です。

多くの在阪マスコミ、記者などは橋下氏の「つるしあげ」を恐れて、自粛したり、持ち上げたりするような傾向があからさまになっていきましたが、齊加さんはその後も維新の会、橋下氏の政治の本質につながる質問、取材する姿勢を崩しませんでした。

映画「教育と愛国」の内容とともに、大阪の維新の会による教育支配、介入のリアルな実態についても触れていただけます。

映画とともに、ぜひ齊加さんの講演会への参加をご予定ください。

### 数値化・言語化しにくい

### 子ども家庭審議会委員

## 「もっと教員の暗黙知や経験知を尊重すべき」

### スタンダード、エビデンス偏重は教員の専門性そこなう

「個別最適な教育」「主体的・対話的で深い学び」「課題解決型学習」などが強調され、委員会のスタンダードとして大きく取り上げられたり、各学校でも研修や校内研究などで「先進的な取り組み」「外部指導者の指導に基づいた」学校での取り組みなどが進められています。

一方で、データや研究に基づく根拠などエビデンスや市全体、学校全体で取り組むことを優先するスタンダードが強調される中で、個々の先生たちの疑問やもっとこんな方法もという創造的な考えが押し流されるようだという声も聞かれます。

### 子ども家庭審議会委員「もっと教員の暗黙知、経験値を尊重すべき」

昨年8月のこども家庭審議会基本政策部会で貞廣斎子委員(千葉大学教育学部教授)が、数値などのデータ、エビデンスだけでなく、学校の教職員をはじめとする、こどもと接する最前線の専門家の暗黙知や経験値も尊重すべきだと強調。子ども支援の審議会の議論とは言え、学校現場の取り組みにも重要な指摘です。

「(学校の教職員など)最前線の専門家が必ずしもすぐには言語化できない、定量化できないけれども大事だと思っている暗黙知や経験値のようなものを尊重すべきだ。」「最前線の専門家の暗黙知や経験値はもろもろの政策を進めていくときの宝になる。この辺もあまり低く見積もらないのが重要だ」と述べています。

### エビデンス・スタンダード 教育が経済・ビジネス用語で語られ始めた時期に

京都大学の石井英真教授は、かねてから研究者(外国では日本より以前から)の中で、データやエビデンスに基づく教育について、論争が行われてきたことを紹介。

また、「エビデンス」という言葉が教育で使用されるようになったのは、PDCA サイクル、スタンダード教育など、教育の営みが経済学やビジネスの言葉で語られるようになった時期と重なるとしています。

それは国際学力調査、全国学力テストの結果をもとに、学校や教員をバッシングして、政治や教育行政の「指示・命令」が振り回され始めたのと時を同じくしていることは明らかです。

### よくある経験 「効果」のある取り組み、〇〇教育を導入してもうまくいかない

### 個々の学校・子どもたち、変化する状況を総合的に判断が必要に

どの先生も優れた実践や、〇〇教育のメリットを聞いて導入しようとしてもうまくいわずに壁に行き当たることもしばしば経験してきています。

教室の授業などの実践レベルでは、学校や子どもごとに状況や先生、子ども同士の関係性も変わります。毎日、毎時間の子どもの表情や反応も変わります。

学校、子どもごとに違う状況、目まぐるしく変化する教室で何が必要か、どの働きかけが有効なのかを、現場の教員が互いに交流、検討しながら、総合的に判断していくことが求められるのが現場です。

エビデンスやスタンダードが優先されることで、一見因果関係や意味が見だしにくい専門的な判断よりも、目的・手段関係としてわかりやすい直接的で短絡的な方法が優先され、教員の専門性が損なわれ、教育実践の形式化につながっていくと指摘しています。

その上で、実践レベル、特に教室での授業レベルでは、一瞬一瞬の状況判断や子どもへの応答が求められる。個々の子どもに応じた専門的で総合的な判断や経験に基づく知見が大きいとしています。

データやそれに裏付けられた科学的根拠(実証的エビデンス)は、その限界を自覚しながら、あくまで現場の経験や知見を深化させるために参照する必要性と、現場での事例研究の必要性を提言しています。

## 職員室、学校に強い「同調圧力」 太田肇教授(同志社大教授) 創造性・個性が阻害され、教員不足にも

『同調圧力の正体』の著者である同志社大の太田肇教授は、日本の学校、職員室には特に「同調圧力」が強く、創造性を阻害している点を指摘、自由を認め意欲を引き出す空間にすべきと強調しています。

学校内の人間関係ばかりの仕事、交流になりがちな閉鎖性、同じような学歴で同じような働き方による「みんながやっているから」からくる同質性、さらには「なぜうちのクラスは指導が違うのか」などの保護者クレームへの対応からも、学校では同調圧力が強まりやすいとされます。

### 「本人の意に反して、一定の方向に向かわせる圧力」

#### 創造性・個性を阻害、教師としての魅力を感じられず教員不足にも

「同調圧力」とは、「本人の意に反して、1つの方向に向かわせる、有形無形の圧力」とされ、それが、一人一人の個性や、考え方が反映されにくいといえます。さらに、新しいアイデアが生まれにくく、学校内も革新もされにくくさせているといえます。

一方、「同調圧力」はある意味、従っておけば、摩擦もなく気楽に過ごせるメリットもあるといえます。

しかし、「教師としてこんなことをしたい」という思いを持つ教員にとっては「意に反した方向」に向かわせられるため、教職に魅力を感じられず、教員志望者にも教職が敬遠されることで、教員不足にもつながっていると太田教授は指摘しています。

### 「同調圧力」に押しつぶされないために、学校以外での交流を

先生たちはほとんどを学校で過ごし、教育や仕事についての考え方も、その枠に囲まれやすいといえます。以前は、盛んに民間の教育研究サークルなどで、広い視野や、学校、自治体の枠を超えた事例に接する機会も多かったのに、多忙化や学校・委員会の研修、研究指定などの強まりの中で、出ていく機会が減少し、狭い範囲での考え方になる傾向になっているともいえます。

太田教授は、「同調圧力」を弱めるためには、

- ① 学校外で活動・交流を広げること。
- ② 学校として目標を設定したら、その具体的な方法は一人一人に任せる。
- ③ 学校でのフラットな関係での対話、対等な対話の重視が必要と指摘しています。

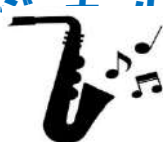
多くの企業では、目標の達成度で社員を評価します。目標を達成しさえすれば、やり方は社員に任せられることを指摘し、管理職や学校の中心を担う人に向け、上記のような対応を進めることが重要としています。

特に、定時で仕事を切り上げ、そのあとは教員たちが外で活動、交流することを校長先生が支援するようなリーダーシップを発揮することも重要としています。

組合の教研集会、実践交流会、民間教育サークルなどに積極的に参加して交流を広げていくことがますます重要になっているといえます。

**ジャズコンサート(地区協文化行事) 10/18(金)18:30 守口エナジー**

チケット 1500円 組合員の方は500円補助 受付でお知らせを  
コンサート終了後、みんなで交流も



# モヤモヤ Café

「これってどうなの？」とモヤモヤがあっても、口に出しにくい、  
みんなで集まって、出し合ひましょう、きいてもらいましょう

## 10月4日(金)19:00

枚方教組 事務所2階(枚方市西禁野2丁目1-1-3)

忙しすぎるのに欠員で大変、他の学校どうなっている？

「働き方改革」なのに、相変わらず6時間授業、行事も盛りだくさん これってうちの学校だけ？

有休、特休、権利や制度使うとき、管理職から厳しく言われてしまう ほかの学校でもそうなの？

研修、研究授業、研究指定で「新しい授業」、個別最適、課題解決習、もっともっとと急かされるように、ホントのところはどうしたらいい？

本当はもっと子どもとおしゃべりしながら、楽しい取り組みや面白い授業やりたいのに

組合員以外の先生も、どなたでも参加できます！！  
ピザや軽食食べながら、気楽におしゃべりをしましょう



どこの学校にも  
悩んテルタル人の先生がいっぱい



参加申し込み QR

<https://forms.gle/kXQVA1kvqncNCq9j7>

当日参加もOK、できれば事前にお知らせを